

## 試験成績証明書

依頼者名 (株)ジムウェイ (株)徳光 殿  
品名 フェイスウェア (マスク用編地:ピンク) 1点  
試験項目 抗ウイルス性試験

平成 27 年 12 月 4 日提出の試料に対する試験結果は下記の通りです。

平成 27 年 12 月 18 日

一般財団法人 日本繊維製品品質技術センター

東部事業所



### 記

○試験内容

繊維製品の抗ウイルス性を評価する

○試験方法

ISO18184 「Textiles -- Determination of antiviral activity of textile products」

○試験概要

・試験ウイルス:

A/Hong Kong/8/68;TC adapted ATCC VR-1679

・宿主細胞: MDCK 細胞 (イヌ腎臓由来細胞)

・試験サンプル: 0.4 g

・洗い出し液: SCDLP 培地

・放置条件: 25℃、2 時間

・感染価測定法: プラーク測定法

※薬事法等の規制により  
ウイルス名は見えなくしています。

○備考

・洗濯方法: JIS L 0217 103 号準拠 吊干し (JAFET 標準配合洗剤使用)

○試験操作

1) 本試験：

1. 宿主細胞にウイルスを感染させ、培養後、遠心分離によって細胞残渣を除去したものをウイルス懸濁液とする。
2. 1. で得られたウイルス懸濁液を滅菌蒸留水を用いて 10 倍希釈し、 $2 \pm 1 \times 10^7$  PFU/mL に調整したものを試験ウイルス懸濁液とする。
3. 各検体に試験ウイルス懸濁液を 0.2 mL 接種する。
4. 25℃、2 時間放置後、洗い出し液を 20 mL 加え、ボルテックスミキサーで攪拌し、検体からウイルスを洗い出す。
5. プラーク測定法にてウイルス感染価を測定する。

2) 宿主細胞検証試験：

2) - 1 細胞毒性確認試験

1. 各検体に洗い出し液 20 mL を加え、本試験と同様に洗い出し操作を行なう。
2. プラーク測定法と同様に細胞を染色し、細胞毒性の有無を確認する。

2) - 2 ウイルスへの細胞の感受性確認試験

1. 各検体に洗い出し液 20 mL を加え、本試験と同様に洗い出し操作を行なう。
2. 上記の洗い出し液 5 mL を滅菌済試験管に採る。
3. 試験ウイルス懸濁液を  $5 \times 10^4$  PFU/mL に調製し、その懸濁液 0.05 mL を 2. の洗い出し液に加える。
4. 25℃で 30 分間静置する。
5. プラーク測定法にてウイルス感染価を測定し、ウイルスへの細胞の感受性を確認する。

○試験結果

1) 本試験

試料		ウイルス感染価 (PFU/vial)(注2) 常用対数平均値		減少値 【M】(注4)	抗ウイルス活性値 【Mv】(注3)
無加工試料 (注1)		接種直後 【lg(Va)】	6.73	0.5	
		2時間放置後 【lg(Vb)】	6.28		
フェイスウェア (マスク用編地：ピンク)	原布	2時間放置後 【lg(Vc)】	<2.30	—	≥4.0
	洗濯3回後	2時間放置後 【lg(Vc)】	<2.30	—	≥4.0

2) 宿主細胞検証試験

検体		2) - 1 細胞毒性の有無	2) - 2 ウイルスへの細胞の感受性確認 ウイルス感染価 (PFU/mL)(注2) 常用対数平均値
無加工試料 (注1)		無	2.88
フェイスウェア (マスク用編地：ピンク)	原布	無	2.82
	洗濯3回後	無	2.79

(注1) 無加工試料：標準布（綿）、(注2) PFU : plaque forming units

(注3) 抗ウイルス活性値【Mv】 = lg(Vb) - lg(Vc)

(注4) 減少値【M】 = lg(Va) - lg(Vb) (試験成立条件：減少値【M】 ≤ 2.0)

【試験成立条件】

2-1) 細胞毒性：無し

2-2) ウイルスへの細胞の感受性確認：

$$\lg(\text{無加工試料のウイルス感染価 (PFU/mL)}) - \lg(\text{加工試料のウイルス感染価 (PFU/mL)}) \leq 0.5$$

2) - 1 細胞毒性確認試験結果より、いずれの検体においても、細胞毒性は確認されなかった。また、2) - 2 ウイルスへの細胞の感受性確認試験結果より、いずれの検体においてもウイルスへの細胞の感受性の低下は認められなかった。

以上

<原布>

～ピンク

